

鹿児島大学・山口大学共同獣医学部獣医学科に対する評価結果

I 判定

評価の結果、鹿児島大学・山口大学共同獣医学部（学士課程）は、本協会の獣医学教育に関する基準に適合していると認定する。

認定の期間は2026（平成38）年3月31日までとする。

II 総評

鹿児島大学・山口大学共同獣医学部獣医学科は、教育資源・人材・設備を共有した獣医学教育カリキュラムを構築するとともに、国際水準の獣医学部教育に進化させるために、相互補完型の教員配置と施設整備を共に戦略的に推進してきた。また、「国際水準の獣医学教育のための相互補完による共同教育体制」と「社会ニーズへの機動的に対応できる獣医学教育と研究」の実現を目指し、共同獣医学部化による獣医学教育改革の推進を図ってきた。こうした背景のもと、共同獣医学部では「生命科学の中核をなす動物生命科学を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」ことを基本理念としている。また、この基本理念を基に、教育理念・教育目標を「国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成する」「幅広い見識と倫理観を持って人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすと同時に社会ニーズに対応した、人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出する」こととし、これらをホームページ等に掲げ、教育研究活動を展開してきている。

上記の理念・目標は概ね達成されている。特に、欧州獣医学教育認定機構（The European Association of Establishments for Veterinary Education（EAEVE））による国際認証取得を目指す取組みは、我が国の獣医学教育の弱点である臨床教育及び公衆衛生教育の改善・改革であり、総合参加型臨床実習及び実地研修を積極的かつ精力的に実施している。その中で、両大学の附属獣医学教育病院の施設と設備は、参加型臨床実習等の教育に活用できるように構成されており、特に鹿児島大学では、「小動物診療センター」「大動物診療センター」「軽種馬診療センター」等優れた施設を有し、獣医学教育（学士課程）の実施のために十分に活用していることは評価できる。そのほか、「夜間・救急病院総合臨床実習」を実施している点や、参加型臨床実習において、卒業時に取得すべき到達目標として「Day 1 skills」を設定し、獣医学教育（学士課程）に対する知識・技能・態度の到達レベルを多角的並びに公平かつ厳正に評価している点は先進的な取組みであり、特色といえる。教育研究等施設においても、国際実験動物ケア評価認証協会

(AAALAC International (the Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care International)) による完全認証を取得した動物実験施設が整備されていることや、鹿児島大学における越境性動物疾病制御研究センター、山口大学における獣医学国際教育研究センター (iCOVER)、総合病性鑑定センター (iPaDL) など、両大学とも他大学にはない特徴的な附属施設を有していることは特色である。さらに、両大学とも共同獣医学部諮問会議や学生協議会を設置して、獣医学関連の関係者、獣医学部学生、獣医学部職員、卒業生等の意見を教育改善に生かす仕組みを作るとともに、その結果を改善に繋げるよう努めていることは特色ある取組みである。

しかし、以下の諸点については、改善に向けて検討することが望まれる。

教育理念・教育目標については、各大学においてこれを公表するにあたって、「教育理念・目的」として、人材養成の目的があわせて掲載されていたり、「教育理念・目標」として公表されていたりと統一がなされていないため、共同獣医学部として表記を一致させ、各大学の共同獣医学部ホームページ等に適切に公表することが望まれる。また、教育については、実習に参画する配置を考慮してティーチング・アシスタント（以下「TA」という。）を確保すること、教育内容を把握するためにも、教員情報、シラバス等両大学の情報を共有するシステムを導入すること、成績評価に関して厳格かつ適正な成績評価を行うこと等の改善が望まれる。さらに、教員組織については、女性教員の比率が低いことから改善が望まれる。加えて、社会連携・社会貢献についても、共同獣医学部として両大学が連携した形でセミナー・公開講座等を開催することが望まれる。

その他、山口大学では、学生が授業科目を体系的に履修できるよう、学位授与方針と各授業科目の関係性や履修の順序を示したカリキュラム・マップを開発し、学生に公表すること、遺伝子組換え実験について独自のマニュアルがないので、早急に管理マニュアルを作成することが望まれる。

これらの点については、これまで同様に、各大学共同獣医学部で改善に向けて継続して自己点検・評価活動に取り組むとともに、共同獣医学部として相互乗り入れの点検・評価体制を構築して獣医学教育（学士）の質のより一層の保証・向上を図り、我が国の獣医学教育を牽引する存在として、特色をさらに伸張していくことを期待したい。

Ⅲ 獣医学教育に関する基準の各項目における概評及び提言

1 使命・目的

<概 評>

共同獣医学部では、基本理念を「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」と定めている。

この基本理念を基に、共同獣医学部の教育理念・教育目標を「国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成し、幅広い見識と倫理観を持って人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに社会ニーズに対応した、人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出すること」と定めており、その内容は本協会の提示している獣医学教育（学士課程）の目的及び獣医学教育（学士課程）を行うにあたっての留意点に概ね合致している。

しかしながら、これら共同獣医学部の教育理念・教育目標を公表するにあたって、各大学において、「教育理念・目的」として人材養成の目的があわせて掲載されていたり、「教育理念・目標」として公表されていたりと統一がなされていないため、これを一致させ、各大学の共同獣医学部ホームページ等に適切に公表するよう、改善が望まれる。

<提 言>

(1) 検討課題

- 1) 両大学において教育理念・教育目標の表記を統一し、各大学の共同獣医学部ホームページ等に適切に公表するよう、改善が望まれる。

2 教育課程・学習成果

(1) 教育課程

<概 評>

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）について、鹿児島大学においては、全学の学位授与方針として「社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力」等3点を定め、そのうえで「動物感染症とその脅威に対する制圧のための基礎知識と技術を身につけている」等6点に「獣医師の職務を行動規範により遂行する能力を身につけている」という点を加えた7点の修得すべき知識・技能・態度等を定めている。

山口大学においては、鹿児島大学と同様の学位授与方針6点を定めている。なお、山口大学の学位授与方針では、鹿児島大学で定めている「獣医師の職務を行動規範により遂行する能力を身につけている」という項目については、「豊かな人間性と獣医師としての正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行する能力」として定めている。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）については、学位授与方針に基づき、「生命倫理と獣医倫理に関する知識を身につけるために、齊一教育科目に導入科目を配置する」こと等を定めている。

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は、各大学ホームページ、各大学共同獣医学部ホームページ及び履修の手引等において公表している。

教育課程については、教育課程の編成・実施方針に基づき体系的に編成されており、講義科目はモデル・コア・カリキュラムの内容に対応して網羅されている。また、モデル・コア・カリキュラムに提示されている各科目の一般目標及び到達目標の数と各科目のコマ数のバランスにも配慮しているほか、実習科目についても、モデル・コア・カリキュラムのすべての実習内容に対応している。なお、講義科目と実習科目は連動している。しかし、コア・カリキュラムの講義を担当する専任教員の割合は両大学とも9割以下であることから、この割合をさらに高めることが望まれる。また、両大学ともに、30名以上の学生に対して教員1名のみで対応している実習科目が複数あり、すべての実習において適正な人数で監督指導ができていないことから、TAの確保が望まれる。

獣医師の資質を涵養する教育については、「獣医キャリア形成論」「獣医倫理学」等により適切に行っている。特に鹿児島大学においては、1年次に著作権と引用方法の理解、命や医療についての倫理学の基本理解、獣医療におけるコミュニケーションの重要性の理解、情報モラルの必要性と情報セキュリティの責任の認識を促すとともに、プレゼンテーションの方法と論証、レポートの書き方、課題の発見と解決法の養成といった基本を修得させることを目指した科目を多く配置しており、特徴的な取組みとなっている。

共用試験については、2017（平成 29）年度より実施しており、その後総合参加型臨床実習及び実地研修を実施している。なお、総合参加型臨床実習においては「夜間・救急

病院総合実習」を実施しており、この取組みは特色となっている。

動物死体を活用した解剖学教育及び病理学教育については、適正に実施されている。鹿児島大学では、近年、病理解剖を積極的に実施していることから、今後も積極的に動物が活用されることが期待される。山口大学においても近年、牛、馬、豚、鶏など十分な検体数を用いた生産動物の解剖実習及び病理学実習が毎年実施されており、適切である。

アドバンス科目として、両大学とも「動物感染症総合実習」、研究室主導である「専攻演習」及び卒業論文を必修科目に指定しており、特に山口大学では、「動物感染症総合実習」においてBSL (biosafety level) 3対応の実習室を使用し、BSL 2病原体を用いたBSL 3病原体取扱シミュレーションを実施するなど、感染症における高い専門性を備えた獣医師の養成に努めている点は注目すべきである。一方で、アドバンス科目として講義科目が設定されていないため、公衆衛生関連や国際防疫関連、医獣連携、高度先端医療などの社会的要求に応じたアドバンス講義科目や演習・実習科目を追加開講することが望ましい。

卒業論文については、個別指導により「研究の方法論」「実験技術」「文献検索法」「論文のまとめ方」「発表方法」を教授し、獣医学教育（学士課程）の目的や社会的要求に応じた獣医師及び獣医学研究者を養成している。インターンシップについては、多くの派遣先を確保し、全学生に必修科目として実施している。

履修指導については、鹿児島大学では、学生が授業科目を体系的に履修できるよう、カリキュラム・ツリー及びカリキュラム・マップを整備し、鹿児島大学共同獣医学部ホームページに提示している。しかし、学部概要に記載されているマップは簡略化されており、学位授与方針との対応がわかりづらいため、この冊子を改訂する際に工夫することが望まれる。また、山口大学では、カリキュラム・フローチャート及び「カリキュラムとGraduation Policy (GP) との相互依存関係一覧表」を作成しているものの、カリキュラム・フローチャートでは記載されていない科目が多く、全科目についての学年配置、授業科目間や実習科目との関係性などを示したカリキュラム・マップとしては十分とはいえないことから、改善が望まれる。

シラバスについては、両大学のホームページ上で公開しており、多くの授業科目で授業計画、全体目標、成績評価方法及び基準等が明記されているものの、一部の科目において、不備があるため、教育内容を把握するためにも、教員情報、シラバス等両大学の情報を共有するシステムを導入することが望まれる。シラバスの記載内容を確認する仕組みとしては、共同獣医学部協議会及び教学ワーキンググループを設置し、カリキュラムの改編については学外関係者を構成員に含めた共同獣医学部諮問会議において獣医学教育の推進体制の強化、学部教育の充実及び発展を図り、社会ニーズに応え、国際通用力のある獣医師や獣医学研究者の養成を強化する取組みを行っていることは評価できる。

成績評価、単位認定、学生からの異議申立制度及び進級要件・卒業要件の設定などに

関しては、学生にも履修の手引を通じて周知を図っている。しかし、成績評価に関して、すべての学生に一律の評価をしている科目が存在することから、改善が望まれる。

共同教育課程に伴う教育方法として、ICTによる遠隔教育で講義の配信は行っているものの、教員移動型教育は設定されていない。遠隔授業については、システム及び実施に関するマニュアルが両大学で整備されている。また、ICTによる遠隔授業及び学生移動型授業に関し、効果を検証する体制や改善につなげる仕組みがある。しかし、獣医生理学実習、実験動物機能学実習、臨床系の実習において、成績評価が両校で大きく異なることから、コア科目の均質性が担保されているとはいえない。共同獣医学部として均質な教育を提供するという視点から、特に実習科目について遠隔教育の導入を検討することが望まれる。

<提 言>

(1) 特 色

- 1) 参加型臨床実習の一つとして「夜間・救急病院総合臨床実習」を実施していることは特色である。

(2) 検討課題

- 1) 教員の实習負担が均一となるように、実習に参画する配置を考慮してTAを確保することが望まれる。
- 2) 山口大学においては、学生が授業科目を体系的に履修できるよう、学位授与方針と各授業科目の関係性や履修の順序を示したカリキュラム・マップを開発し、学生に公表することが望まれる。
- 3) 教育内容を把握するためにも、教員情報、シラバス等両大学の情報を共有するシステムを導入することが望まれる。
- 4) 成績評価に関して、すべての学生に一律の評価をしている科目が存在することから、厳格かつ適正な成績評価を行うよう、改善が望まれる。

(2) 学習成果

<概 評>

学生の学習成果の把握・評価は、両大学ともGPA (Grade Point Average) や定期試験及び共用試験により行っている。また、臨床実習においては、卒業時に修得すべき到達目標として「Day 1 skills」を設定し、多角的に獣医学教育(学士課程)に対する知識・技能・態度の到達レベルを公平かつ厳正に評価している。

新卒者の獣医師国家試験合格率は、適切な水準を維持している。また、卒業生の進路状況・活躍状況を把握できるシステムが整備されており、適正にデータの蓄積が組織的に行われている。両大学ともに過去5年間の獣医師国家試験合格者の進路を100%把握しており、その80%以上が獣医学関連分野に就職している。

<提 言>

(1) 特 色

- 1) 臨床実習において、卒業時に修得すべき到達目標として「Day 1 skills」を設定し、多角的に獣医学教育(学士課程)に対する知識・技能・態度の到達レベルを公平かつ厳正に評価していることは特色である。

3 学生の受け入れ

<概 評>

共同獣医学部として両大学で共通の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。求める人材像として「獣医師の幅広い職責について理解し、獣医学を志す明確な目的意識を有する人」等3点を定め、それぞれの大学が独自に作成する冊子（学部概要、学生募集要項、履修の手引き等）や各大学のホームページ、共同獣医学部ホームページにおいて公表している。また、「入学前に身につけて欲しいこと」を提示するとともに、それぞれの入学試験で何を重要視するかを「入学者選抜の基本方針」として明示しており、学生の受け入れ方針に沿った入学試験が適正に行われていることの裏付けとなっている。

一般入学試験においては、前期の個別学力検査で数学と理科を課し、基礎学力、思考力を重要視し、後期の面接試験で基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、表現力、適性を評価している。さらに推薦入学試験においては、高等学校の学習成績概評がA以上の者に限定し、個別学力検査と面接を課すことによって、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適性を評価している。このように多様な入学試験制度を取り入れており、多様な志願者層に積極的に門戸が開かれている。

入学定員30名に対する入学者数比率は、両大学ともに過去5年間いずれの年度も100～110%に収まっており、入学定員の適正な管理が行われている。

4 教員・教員組織

<概 評>

教員組織の編制方針については、各大学において適切に定められている。獣医学教育（学士課程）に必要な教員数については、両大学の教員数の合計が 87 名（専任 82 名、特任 5 名）であり、60 名の学生定員数に必要であると規定される必要教員数 71 名を上回っており、適切である。専任教員を中心に獣医学教育（学士課程）に必要な教員が分野ごとに適正に配置され、コア・カリキュラム科目及びアドバンス科目を互いに分担して担当している。担当教員の適正（関連する研究業績や専門職経験）、専任教員の獣医師免許保有率及び職位ごとの年齢構成のバランスについても適切である。一方、全専任教員に占める女性教員の比率が低いため、改善が望まれる。

教員の募集・任免・昇格については、各大学とも各職位別に専門性に配慮した教員任用に関する基準が設定されており、透明性のある手続等を定め、公正な運用に努めている。

専任教員のコア・カリキュラム講義科目における教員別の負担については、若干講義負担の多い教員は存在するものの、過度な負担とはなっておらず、全体的に見ると偏りは少ないと判断できる。しかし、コア・カリキュラム実習科目については、特に臨床系教員において、参加型臨床実習を加えると顕著に負担が多い教員が認められる一方で、授業負担がやや少ない教員も一部認められることから、全体的な改善が望まれる。

教員の資質向上のための組織的かつ多面的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については積極的に取り組んでおり、多くの教員が共同獣医学部合同 FD 研修会に参加している。一方、一部教員の研究活動は不活発であることから、研究活動の重要性を共有する努力が求められる。

以上のことから、共同獣医学部の専任教員は、獣医学教育を方針に沿って効果的に実施するために適正に配置されていると判断するが、今後の教員任用にあたっては、共同獣医学部という観点から、専門分野、授業負担に配慮した教員配置及び女性教員を含めた計画的な人事が望まれる。

<提 言>

（1）検討課題

- 1) 全専任教員に占める女性教員の比率が低いことから、今後の教員採用時に女性教員の割合の改善に留意することが望まれる。

5 学生支援

<概 評>

学生支援については、各大学において学生が相談できる窓口が全学及び学部単位で設置され、修学、学資、健康、就職、課外活動などのさまざまな問題に対応できるように体制が整備されている。これらの学生を支援する仕組みは、各大学で発行する冊子（履修の手引き、学生便覧、学生生活の手引き等）に記載し、学生に周知が図られている。また、クラス担任教員あるいは指導教員が配置され、修学に関する事項、授業料免除や奨学金に関する事項、休学・退学や進路に関する事項等について助言、指導を行えるように努めている。

両大学ともに、学生の自主的な学習を促進させるために、自学自習のための e-ラーニングコンテンツや課題を配信する仕組みを構築するとともに、臨床技術の習得や疾患の診断・治療のシミュレーションができるスキルラボを設置している。また、学生自習室を低学年用と高学年用に分けて設置するほか、専門図書を整備して自由に自学できる環境を整備するなど、それぞれの大学で工夫を凝らし、学生の能力に応じた補習・補充教育の充実を図っている。なお、両大学ともに遠隔講義システムで配信した授業を録画し、その一部を学生自習室で公開することによって、効果的な予習や復習ができるようになっている。

障がいのある学生、留学生など多様な学生への支援体制は、各大学において全学的に整備されている。学生への経済的支援に関しては、学費の納入が困難となった学生に対応できるよう、大学独自の授業料免除や奨学金の制度を整えている。心身の健康及び保健衛生等に係わる相談体制については、各大学の保健管理センターを中心に相談等に適切に対応するためにカウンセリング指導相談体制を整備、実施している。ハラスメント防止対策に関しては、鹿児島大学においては「ハラスメント防止のための指針」等を、山口大学においては「ハラスメントの防止及び対策に関する規則」等を定め、学生の人権を保障し、ハラスメント行為に対する厳正な対応に努めている。そのほか、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等、多様なハラスメント問題の解決に向けて学生・教職員に啓発を行うなど、十分な配慮がなされている。

進路支援については、鹿児島大学では就職支援センターを、山口大学では就職支援室をそれぞれ設置し、経験豊富なアドバイザーを配置するなど、就職に関する相談や就職活動などについての支援を実施している。加えて、共同獣医学部としては、毎年5月に他大学も含めた3大学合同就職説明会を開催するなど、進路支援が適切に実施されている。

6 教育研究等環境

<概 評>

教育施設・設備については、両大学とも獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設が整備されている。また、獣医学教育研究に必要な学術情報資料は、学生及び教員が適宜入手できるようになっており、自学習室やスキルスラボにおいては電子教材や実習模型にオンデマンドにアクセスできる体制が整っている。授業支援システムを利用して、授業資料の配信、宿題レポート等のやり取りが可能となっており、十分な体制が整っている。

動物実験については、国際実験動物ケア評価認証協会（AAALAC International）の完全認証を受けた総合動物実験施設（鹿児島大学）、先端実験動物学研究施設（山口大学）を整備し、動物実験倫理・動物福祉に配慮した実験動物の飼養に関する環境及び管理が提供されている。また、動物実験倫理・動物福祉に配慮した動物実験に関する規則・飼養管理マニュアル等を、両大学それぞれ全学レベル及び学部レベルで制定し、規則に従い、動物実験に関して監督指導する動物実験委員会を設置しており、動物実験が適切に実施されている。病原体等利用実験についても、両大学において法律あるいは法令に基づく学内規則・管理マニュアルを整備し、実験に関して監督指導する委員会を設置している。遺伝子組換え実験については、鹿児島大学では法律等に基づいた学内規則・管理マニュアル等の整備、実験に関して監督指導する委員会の設置が適切に行われている。一方、山口大学においては「組換えDNA実験計画申請書」「組換えDNA実験計画書」の書式が定められ、機関承認実験や大臣確認実験の申請、審査や監督指導が行われているが、大学独自の管理マニュアルが作成されていないため、早急な対応が望まれる。

両大学ともに、附属獣医学教育病院の施設と設備は、参加型臨床実習等の教育に活用できるように構成されている。特に鹿児島大学においては、「小動物診療センター」「大動物診療センター」「軽種馬診療センター」等優れた施設を整備しており、高く評価できる。また、附属獣医学教育病院で実施する参加型臨床実習及び日常の診療・教育等に必要専任教員、病院専任教員、特任教員、研修獣医師及び動物看護師等のスタッフを配置し、人的体制が整っている。附属獣医学教育病院における参加型臨床実習等のための患畜（症例）は、大動物、小動物いずれも十分な数が確保されている。各診療科で「Day 1 skills」を作成し、実習による学生の到達度チェックを厳密に行う等、附属獣医学教育病院において参加型臨床実習等を適切に実施していることは評価できる。このように、附属獣医学教育病院は、獣医学教育（学士課程）の実施のために十分に活用されている。加えて、鹿児島大学における越境性動物疾病制御研究センター、山口大学における獣医学国際教育研究センター（iCOVER）、総合病性鑑定センター（iPaDL）など、両大学とも他大学にはない特徴的な附属施設を有し、教育に活用していることは特色である。

研究倫理や研究・診療活動の不正防止については、両大学ともに不正行為を防止し、学術研究の健全な環境の確保と学術研究の信頼性と公正性を高めるために必要な規程を

全学的に定めている。明文化された規程に従って、最高管理責任者、研究活動における不正行為に関する統括管理責任者、研究倫理教育責任者が選出されるように設定されているほか、告発、調査、認定、調査結果の報告、不服申立て、調査結果の公表、研究に係る経費の使用停止・中止・返還等、さまざまな手順も整えられ、適切な運用がなされている。

学生の海外派遣及び留学生の受け入れについては、両大学ともに適切に行っており、国際性を踏まえた教育環境の整備として積極的な取組みを行っている。特に鹿児島大学では、海外の研修に参加した学生に研修内容や体験を報告する機会を学部主催の研究会として提供し、他の学生の意欲向上を促している点は評価できる。

<提 言>

(1) 長 所

- 1) 両大学ともに、附属獣医学教育病院の施設と設備は、参加型臨床実習等の教育に活用できるように構成されており、特に鹿児島大学では、「小動物診療センター」「大動物診療センター」「軽種馬診療センター」等優れた施設を有し、獣医学教育（学士課程）の実施のために十分に活用していることは評価できる。

(2) 特 色

- 1) 両大学に設置されている動物実験施設は、国際実験動物ケア評価認証協会（AAALAC International）による完全認証を受けた施設であり、国際社会に対して動物管理と使用について責任ある説明ができるとともに、実習教育と研究を実施できるように整備されていることは特色である。
- 2) 越境性動物疾病制御研究センター（鹿児島大学）、獣医学国際教育研究センター（iCOVER）及び総合病性鑑定センター（iPaDL）（ともに山口大学）など、両大学とも他大学にはない特徴的な附属施設を有し、教育に活用していることは特色である。

(3) 検討課題

- 1) 山口大学では、遺伝子組換え実験について独自の管理マニュアルがないので、早急に管理マニュアルを作成することが望まれる。

7 社会連携・社会貢献

<概 評>

生涯学習の機会を提供するため、獣医師を対象とした学術講習や研修会等に加えて、一般市民を対象としたセミナーや公開講座等も定期的実施されている。特に、鹿児島大学では、獣医師を対象とした獣医学研究会、KUVTEH（附属動物病院）セミナー、大動物・小動物フォーラムの定期的な実施を通じて獣医師の質的向上に貢献している。また、一般市民向けとして、附属越境性動物疾患制御研究センターが主催する「TAD市民公開講座」及び動物病院が主催する市民セミナーを毎年開催していることから、社会との連携及び貢献度については評価できる。山口大学では、動物医療センターにおいて獣医師対象の小動物中心の総合臨床セミナーが定期的実施されており評価できるものの、学部が主催する一般市民向けの公開講座等はほとんど開催されていないため、開催が望まれる。

地域の人々への生涯学習機会の提供は大学の使命であることから、今後、両大学協力のもと、共同獣医学部として主催する形を含め、獣医師向けや一般向けの公開講座等の定期的な開催を期待する。

<提 言>

(1) 検討課題

- 1)山口大学において、所属教員が他の組織の主催する会で講演するだけでなく、自らが主体的に主催する住民・市民対象のセミナー、公開講座の開催が望まれる。
- 2)共同獣医学部として両大学が連携した形でのセミナー、公開講座等の開催が望まれる。

8 点検・評価、情報公開

<概 評>

自己点検・評価の体制について、鹿児島大学では「国立大学法人鹿児島大学評価実施規則」を制定し、それに基づき企画担当理事を委員長とする企画・評価委員会を設置し、自己点検・評価体制を整備している。また、同委員会はその評価結果に基づく改善策を策定し、適切に公開している。山口大学では、自己点検・評価体制として山口大学評価委員会が、共同獣医学部には共同獣医学部自己点検・自己評価委員会が設置されており、独自に開発されたシステムにより、教員活動、組織活動、施策活動に関する自己点検・評価が実施されている。

自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善につなげるための取組みとして、両大学とも、共同獣医学部諮問会議や学生協議会を設置して、獣医学関連の関係者、獣医学部学生、学部職員、卒業生等の意見を教育改善に生かす仕組みを作るとともに、その結果を改善に繋げるよう努めており、評価できる。また、欧州獣医学教育認定機構による欧州獣医学教育認証取得に向けて、非公式訪問や公式事前訪問等による施設整備と教育内容・方法に関する指摘改善事項に関して速やかに対処している。山口大学では、各部長や大学執行部はそのデータを解析し「山口大学活動白書」などを外部に発信するとともに、その結果を改善に繋げる仕組みを整備している。

以上の通り、各大学において、それぞれ個別に自己点検・評価体制を整備し、点検・評価を実施しているが、共同獣医学部である以上、相互乗り入れ的な組織による点検・評価体制の構築を検討すべきである。

情報公開については、両大学において共同獣医学部ホームページを開設し、情報発信に努めており、学生や教職員向けに教育に関する各種情報が適切に公開されている。

<提 言>

(1) 特 色

- 1) 両大学とも共同獣医学部諮問会議や学生協議会を設置して、獣医学関連の関係者、獣医学部学生、獣医学部職員、卒業生等の意見を教育改善に生かす仕組みを作るとともに、その結果を改善に繋げるよう努めていることは特色である。

(2) 検討課題

- 1) 共同獣医学部として相互乗り入れの点検・評価体制の構築が望まれる。

以 上